

# ゆうこうの家通信 Vol.3

発行:

発達・心理相談センター  
「ゆうこうの家」

名古屋市天白区表山1-1753-2

電話 052(880)7704

「ゆうこうの家」は、発達障がいを始めとする障がいや、こころの問題をもつ人々に対し、療育やカウンセリングを中心とした支援活動を行い、より健やかで豊かな成長と、社会への適応を支援することを目的としています。

また、「ゆうこうの家」通信は職員や利用者の家族の編集・取材・協力により不定期に発行しています。

日々の療育・イベントの様子、また人には言えない(?)本音など、利用者の家族ならではの視点で編集しています。利用者の方、これから御利用を考えていらっしゃる方の参考になりましたら幸いです。

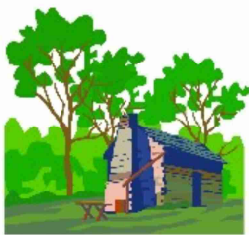
「ゆうこうの家」は、年間にいくつものイベントを行っています。2011年はたくさんのイベントがありました。それらをご紹介します。

## 恵那峡でキャンプ

2011年7月29日～31日の2泊3日で、小学4年生～高校生を中心に恵那峡へキャンプに行きました。さて普通の都会生活とは違い大自然が彼らに与えた試練とは？

お借りしたキャンプ場はオーナーさんが長い年月をかけて、一人でこつこつ作り上げた出来たてのキャンプ場です。公道から林を抜け、坂を下りると、突然小さい小さい集落みたいなキャンプ場が現れます。

川を眼下に眺め、うっそうとした木々に囲まれた見つけることの困難な、手作り感満載の小屋が、これまた手作りの小池をはさんでいくつも並んでいる、自然溢れたところ。



しかも貸切です。ここなら元気あふれる子供たちがどれだけ本領発揮しても大丈夫。こんな希望通りの場所を見つけ、下見にも出かけてくださった先生に感謝です。

寝泊まりする小屋に入った子供たちをまず歓迎してくれたのは、見たこともない虫、虫、虫(笑)。都会っ子の彼らは、阿鼻叫喚で応えさせていただきましたが、先生たちの指導の元、速やかにお引き取り願ったそうです。いい経験です。



さて、自然の住人たちを追い出し、人間たちの居場所の確保に成功したゆうこうのみんなは、息つく間もなく、先生が予約しておいてくださった、近くの観光施設に、真夏の炎天下を歩いて行きます。

そこにはクラフト体験と万華鏡づくりが待っていました。



細かい作業が苦手な子が多い中、器用な子もいたりして、多彩さを見せてくれました。これはお土産になったはずですが、保護者のみなさん、お子さんの作品は、いかがでしたか？

さらに天界苑での自然散策、動物たちとの触れあいと、鷹匠さんの見せてくださった、見事な鷹。

いっぱい楽しんだかどうかはそれぞれだったようですが、観光施設を後にしてキャンプ場に戻った子供たち。キャンプ場はゲームやテレビや漫画が溢れるおうちと違い、自然しかありません。それでもさすが柔軟な子供たち、あるもので楽しんじゃいます。

小さい子供たちは特に女性の先生たちから離れられなかったようで、まだまだかわいらしいところが残っているようです。先生たちの方はいろんな要求をされて、大変だったことでしょう...

晩御飯はもちろんみんなで手作りです。

2日目は全員で博石館の宝石探し。その後、神社巡りとキャンプ場散策のどちらかを選択しての行動でした。

さて、どちらを選んででも暑い中を目的地へ、ひたすらてくてく歩きます。先頭に行く高学年のお兄さんたちの後を、汗をたらだら流しながら根気よく文句も言わず歩いていくみんな。やる時はやります。

まずはようやく辿りついた博石館。



さあ宝石探しです。目の色を変えて探しまくりますが、果たしてお目当ての宝石は見つかったのでしょうか。

この夜は恵那納涼水上花火大会が開催されるので、会場までたてくてく歩きます。

初めはきれいな花火にみんな感嘆していましたが...

突然、大雨が降りだしたのです。

山の中でもあり、季節的にも雨はいつ降り出しても



おかしくないのですが、これも自然との触れあい。開き直って一同びしょぬれを覚悟したようです。えらい。

ところがここで救世主が現れました。様子を見に来てくださった副院長です。

副院長はここぞとばかりに高い値を吹っ掛ける店と



交渉したり諦めたり。ついに安い傘を探し出し、買占めてくれました。

さらに副院長は朝御飯のメニューのひとつ、お味噌汁を作ろうとしてくださいましたが、肝心の味噌がない。さてどうしたのか、それはお子さんたちや諸先



生方、副院長にお聞きください(笑)。

他にもたくさん思い出を作り、無事終了させることがなかなか難しいと思われ



るお泊り会を、事故も脱落者もなく終えることができたのは、諸先生方のご尽力とボランティアの皆さんのご協力の賜物です。本当にありがとうございました。

そして引率された華山先生は.....。

「色々な意味で子どもより大人がしんどいキャンプでした」だそうです(笑)。

そんな思い出いっぱいのお泊り会でしたが、残念なのはカメラを忘れてしまったこと。というわけで、ここにあまり写真を載せられなかったことを深くお詫びいたします。

なお、今年度は若狭湾少年自然の家をすでに予定済みとのこと。先生方にはまたご苦勞をおかけするとともに、親たちはさらなる感謝を重ねることになりそうですね。

## 2デイスイミング

8月1日~2日

夏と言えばプールですが、なかなか一般のプールは難しい知的障害のある子ども、小学生8名が参加しました。



どうしてもグループ活動では、通常学級に在籍している子どもが対象になるため、この年、絶対にやりたかった企画。実現できて嬉しかったのは先生たちばかりではなかったようです。

しかしこれもカメラを忘れてしまったので、写真なしで申し訳ありません。

市営プールの半分を貸切、プールの係員の人たちも付き添ってくださり、たくさんの大人たちが見守ってくれる中、

子供たちは気兼ねなく泳ぐことができたようです。

うきわなしで遊ぶ子もいました。「また行きたい！」と言う声をたくさんいただきましたが、2日目は、雨のため中止となってしまいました。残念。

## ゆうこうお泊り会

in木馬

8月6日~7日

遠出のお泊り会はどうしてもある程度の年齢にならなければ参加が難しいもの。

というわけで今回は低学年を対象に、ゆうこうのすぐ近くの木馬でお泊り会を行いました。(木馬というのは表山クリニックが基本経営し、ゆうこうの家に全面的に協力してくれている住居付き喫茶店です。なので、お泊りもお料理もここでできちゃうのです!)

1日目

「仲良しゲーム」という名のSST(ソーシャル・スキル・トレーニング)ゲーム。

親がないのに、それほどパニックになる子もおらず、みな汗だくになりながら(全室冷暖房完備の設備ですが、たくさんの子供たちの体温はエアコンの能力を超えたようです。すごい)ゲームを楽しみました。



創作活動では、割り



箸とペットボトルのふた、輪ゴムを使っておもちゃを作りました。伸びるハンドマジックといったところでしょうか。これも子供たちに大好評で、中には今でも思い出として家に飾ってある方もいらっしゃるそうです。

まだまだ作ります。

次はコースターです。作り方は簡単。プラスチックのコップに絵を描いて電子レンジへ投入するだけ。ぺったんこになったコースターのできあがりです。

マシュマロを溶かして飴を作ったりという、料理実験にも挑戦しました。



お昼は木馬で。ご覧の通



り、付き添いの大人がたくさんなので安心です。

この後はゆうこうの夏の恒例となったらしいスイカ割り。そしてゆうこうの家の駐車場で花火です。

2日目

地下鉄に乗って瑞穂運動



場屋外プールへ。相当歩きましたが、子供たちは真夏のプールに「サイコー!」「楽しい!」と大はしゃぎ。

そんなお泊り会の帰りは大人も子供もくたくたになっての御帰還で終了となりました。

小さい子供ばかりでしたが、ケガがなくてなりよかったです。これもたくさんのボランティアのみなさんのご協力のおかげです。本当に、ありがとうございました。

## 2デイクッキング

in木馬8月9日～10日

各8名ずつの参加。

お菓子作りが得意な保護者の方に手伝ってもらいました。ありがとうございます。

親たちは後ろで見守りつつ、たくさんの先生たちに囲まれ、子供たちはけっこう真剣に取り組みました。

### 1日目 和菓子づくり(寒天、白玉団子)

寒天を冷やす際に、スタッフがごぼしてしまうハプニングあり。大人がわたわたしながら、なんとか作り直しに成功。普段、子どもにパニック状態での対応を教えているのに、取り乱した大人は反省です。

### 2日目 洋菓子づくり(ティラミス、クレープ)

ティラミスづくりでスポンジに染み込ませる液をコーヒーでなく、ココアやオレンジジュースを使用してみたら...おいしい!。

前日に試作で、半分おふざけで使ったオレンジジュースが意外に美味しくて、当日採用してみたのですが、さっぱりしてお勧めです。

2日とも子供が作るお菓子と侮るなかれ、どれも本格的で美味しく、子供にも大人にも大好評でした。ちなみに出来たものは後ろで見学していた親たちにもおすそ分けしました。



## 卓球交流大会

中学生と高校生の比較的高学年の子供たちが、夏と冬に卓球交流戦を開催。

夏も冬もですが、中学生より体格差のいい高校生、また、中学生でも卓球に大変秀でている子には、くじでハンディを与えております。例えば、すごく小さい手の平サイズのラケットを使うとか、ラケットの代わりにティッシュボックスを使うとか。

そんなハンディにもめげず、勝ってしまう子がいるから驚きです。中学高校生にもなれば、多少のハンディは乗り越えるようになるのですね。もちろん、ハンディなしでも中学生に負ける高校生もいますけれど(笑)。

夏の大会は、後にビンゴを楽しみました。景品は子供たちが持ち寄ったものと、先生がどこからか仕入れてきたお菓子の詰め合わせとか、わけのわからないおもちゃだったり。色々な意味で大変盛り上がりしました。

夏も冬も大会の後は、木馬でお食事会。冬はクリスマス会も兼ねてますから、ごちそうやケーキが出て、大変盛り上がりしました。

木馬での打ち上げには、毎回副院長先生がご参加くださり、色々な差し入れをくださるので、親子共々お腹がいっぱい大満足で終わる事ができました。とにかく食欲旺盛な育ち盛りの子供たちなので、大変助かります。これまた、盛り上がったのに、写真を忘れてました。



## スタッフ紹介

2011年に新たに加入した先生方や日頃お世話になっている「ゆうこうの家」のスタッフの紹介です。いつもの先生方の意外な一面が見られるかもしれません。

### 華山 将

- ・趣味; ゴルフの打ちっぱなし、読書(漫画)、資格取得
- ・特技; 水泳
- ・好きな食べ物; ラーメン、つけ麺、ケーキ、お酒

### 宇佐美 優

- ・趣味; 甘いものの食べ歩き、温泉旅行、入浴剤収集、料理
- ・特技; 卓球、どこでも眠れること
- ・好きな食べ物; 甘いもの、魚介類、野菜
- ・好きなタイプ; 自分の為に苦言を呈してくれる人に、感謝できる人

### 小山 智子

- ・趣味; クラシックギター、手芸
- ・特技; 細かい作業
- ・好きな食べ物; あっさりしたラーメン(しょうゆ味)
- ・好きなタイプ; 渋い英国紳士のような人
- ・好きな言葉; 自灯明、法灯明

### 田中 裕美

- ・趣味; お菓子作りとF1鑑賞
- ・特技; 何も無いところでこける
- ・好きな食べ物; 果物と甘いもの。イチゴ、レモン、グレープフルーツ

**松浦 佑規**

- ・趣味；マラソン、ゴルフ
- ・好きな言葉；日々精進
- ・一言；親御さん、お子さんと共に成長していきたいです！

**牛田 絵里（事務）**

- ・趣味；音楽鑑賞、車の運転
- ・特技；忘れ物
- ・好きな食べ物；オードブル（前菜）、お酒
- ・好きな言葉；「明けない夜は無い」

**「ゆうこうの家」スタッフ代表挨拶**

華山 将

いつも「ゆうこうの家」に通っていただき、また、「ゆうこうの家」を温かく見守っていただき、本当にありがとうございます。

魚住代表はさておき、療育スタッフは皆まだ年齢も若く、未熟な面も感じられることが多々あることかと思えます。その未熟な面を保護者の方々に温かく支えていただいているから、この仕事を続けていられるのかなと思っています。

最近、療育の際に使う机が、小さなものから大きなものになってきました。私が「ゆうこうの家」以前の表山クリニック時代から担当していた年中の男の子が、4月に中学生になります。月日が経つのは早いもので、子どもの年齢とともに、自分の年齢も上がっていると思うと、複雑な気持ちになります。余暇支援教室に通っている高校生たちも、あと数年したら一緒にお酒が飲めると思うと嬉しい反面、成人して社会に出ていくのかと思うと、親心にも似た心境になることもあります。

私は普段、“人から愛される子ども”にしたいということを中心に、子どもたちと接しています。ここでの人とは、保育園（幼稚園）、小学校、中学校、高校、大学、会社、福祉施設など社会的場面で関わってくれる大人、主に、保育士、教師、上司や支援員にあたる人たちを一番に考えています。

担当の子どもとの良好な関係も勿論大切ですが、タイムアウトの手続きをとることや時には厳しく叱ることもあります。療育スタッフは皆、心理士ですから関係をとるだけなら、それほど苦にならないように思います。

しかし、いくらスタッフとだけ関係がとれても、実際の社会生活に適応できずに問題行動をくり返していると、療育という面から考えると成功とは言えません。

ただ、ニーズが多様化し、必ずしも社会で自立させたいということだけが目標ではなくなってきたことも同時に感じています。それでも、“人から愛される子ども”にしたいという気持ちは、むしろ経験を重ねていくにつれ、年々強くなっていることを自分自身感じています。

療育スタッフ一同、今通われている子どもたちにより良い支援をしていくために、毎週、仕事が終わってから夜遅

くまで、勉強会を行っています。また、一人でも多くの方の支えになれるように、勤務日を増やしてくれたスタッフもいます。温かく見守ってくださる保護者の方々に支えていただきながら、スタッフもまた、子どもたちとともに成長していきたいと思っています。

今後も、「ゆうこうの家」をどうぞ宜しくお願い致します。

**「ゆうこうの家」代表挨拶**

魚住君枝子

3月3～4日、東京でADHDの勉強会がありました。

ADHDの人は不注意ではなく、多注意で、頭の中がめちゃくちゃ忙しい、ネオンサインがちかちか輝く街中で入るべき店が見えない、そんな感じと思えばいいとのことでした。

さて若い頃、コンタクトレンズを使ってみたら物がとても大きく見えて驚きましたが、それが本来の大きさです。近視用（凹レンズ）眼鏡を使えば、目から離れている分、自分は約8割位の大きさで世界を認識しているのだとその時悟りました。

認知の仕方は発達に偏りのある人は特に様々だと思えます。正しく見えない、ゆがんで見える、見えすぎる、あるいは聞こえない、聞こえすぎる、感じない、感じすぎるなどのためにできないのだとしたら、それに応じた支援方法があると思えます。

「どうしてできないの？」と叱る前に、どんな風に見えるか、聞こえているか、感じているかと考えてみると少し余裕ができると思います。

「ゆうこうの家」のスタッフや仲間と一緒にその方法を探してほしいと念じています。

**編集後記**

やっとVol. 3が出せました。

毎回、拙い通信で申し訳ないのに、その上資料を全く集めていなかったという失態。しかし、皆さんからの写真の提供、取材協力でなんとか発行にこぎつけました。ありがとうございました！特に華山先生、副院長にはご多忙の中、多大なるご協力、ご援助、感謝に堪えません。

**法人概要**

名称：発達・心理相談センター「ゆうこうの家」

認証年月日：H18.9.29

代表者名：魚住君枝子

所在地：名古屋市天白区表山1丁目1735番地の2

電話番号：（052）880-7704

定款に記載された目的：

この法人は、発達障害をはじめとする障害およびこころの問題をもつ人々に対し、療育・カウンセリングを中心とした社会生活適応能力を向上するための支援事業を行うことにより、障害をもつ人々のより健やかで豊かな成長と社会への適応に寄与することを目的とする。